

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦 第53回 MFJグランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿

三重県・鈴鹿サーキット (1周=5.8211km)

2021年7月17日(土) 公式予選・JSB1000レース1 天候:曇り コース:ドライ

7月18日(日) 決勝・JSB1000レース2 天候:晴れ コース:ドライ

観客動員数: 10,500人 (2日間合計)

JSB1000	2	■清成龍一	Race1 予選: 9番手(タイム:2分07秒595) 決勝: 11位
			Race2 予選: 7番手(タイム:2分07秒687) 決勝: 2位
ST1000	37	■渡辺一馬	予選: 2番手(タイム:2分09秒196) 決勝: 優勝
ST1000	3	■作本輝介	予選: 5番手(タイム:2分09秒889) 決勝: DNF

渡辺一馬が今シーズン2勝目をマーク! 清成龍一がレース2で復活の2位入賞!!



全日本ロードレース選手権第5戦が三重県・鈴鹿サーキットで7月17日(土)・18日(日)に開催された。本来、このウイークは、鈴鹿8時間耐久ロードレースが行われる予定だったが、コロナ禍の影響で全日本最終戦MFJグランプリと日程が入れかわっての開催となっていた。MFJグランプリという名称は変わらず、ボーナスポイントもつく形だったが、この時期に鈴鹿で全日本ロードレースが行われること自体が異例のことだった。

6月上旬に本来であれば鈴鹿8耐に向けたテストがあったが、そこで今回のレースに向けたセットアップを行い、レースウイークは、木曜日の特別スポーツ走行から始まった。JSB1000クラスの清成龍一は、第3戦SUGO以来、約2カ月振りのレース。今シーズンは、昨年と違う方向のセットを模索してきたが、今回も何度もワークショップに足を運び、チームとミーティングを重ね、様々なセットを試して来たが、なかなかいい方向にまとめる

ことができずにいた。

一方、ST1000クラスの渡辺一馬と作本輝介は、安定した速さを見せてきていた。前戦筑波では、明暗を分ける結果となっていたが、同じ轍は踏まないようチームもライダーをバックアップ。その頑張りに応えるように、渡辺は初日にトップタイムをマークし、2日目は2番手。作本も初日7番手、2日目は4番手と上位につけていた。

公式予選の行われた土曜日に東海地方は梅雨明け宣言が出され、気温も上昇。路面温度は46度と、50度越えとなる鈴鹿8耐ほどではなかったが、今シーズン一番暑いコンディションとなっていた。

JSB1000クラスの公式予選は、2度も赤旗が出る波乱のセッションとなり、清成はタイムアタックのタイミングを、ことごとくつぶされてしまっていたがセッション終盤にタイムを削っていく。しかし、マシンのフィーリングがよくなるよう

なタイムを出せずレース1は9番手、レース2は7番手と3列目からのスタートとなっていた。

一方、好調なST1000勢は、ポールポジションこそ逃したものの僅差で渡辺が2番手、作本も5番手と好位置につけ予選を終えていた。

迎えたJSB1000クラスレース1。オープニングラップを8番手で終えた清成は、2周目に7番手に上がるが、3周目に9番手、4周目に11番手とポジションを落としてしまう。新しいマシンセットがうまく決まらず苦しいレースとなっていた。ピットインすることも考えたが、何とかコースにとどまり11位でゴール。この結果を受け、レース2は実績のあるセットで行くことを決め、チームはマシンを仕上げている。

日曜日朝のウォームアップ走行で清成は、マシンを確認し、ようやく攻められる状態になってきていた。ST1000の渡辺は4番手、作本は予選タイムを僅かに上回り7番手につけた。



お昼に通り雨があったものの、JSB 1000クラスのレース2が始まるころには、影響はなく、ドライコンディションでレースは争われた。予選3列目の清成は、好スタートを見せると1コーナーで4番手に、さらにS字コーナーの進入で3番手に浮上し、中須賀選手のテールをマークすると、バックストレートで前に出ていく。その勢いそのままホームストレートで加賀山選手をかわずとトップに浮上！ そのままレースをリードしていく。

トップグループは、清成を先頭に4台が形成。そのままレース中盤までトップをキープするが、9周目のシケインで中須賀選手が前に出ると一気にスパート。これを追いたい清成だったが、逆に日浦選手にかわされ3番手に後退。12周目に

抜き返し2番手に上がると日浦選手を引き離し、2位でゴール。苦しいレースウイークだったが、最後に表彰台に戻ることができたのだ。

そして、この日最後に行われたST1000クラス決勝。フロントロウの渡辺と岡本選手が好スタートを切るが、さらなるスタートダッシュを見せたのが作本だった。アウト側からホールショットを奪うとレースをリード。作本はオープニングラップからペースを上げ、2番手以下を引き離していく。そのまま独走態勢を築きたいところだったが、ライバルはそれを許さず5周目には、追い上げてきた渥美選手にシケインでかわされ2番手に下がるものの、すかさずホームストレートで抜き返し、渡辺もトップグループに加わっており、

この時点で4台の集団になっていたのだが…。

8周目のデグナーカーブ2個目で強引に作本のインに入ってきた渥美選手が転倒。作本は足もとをすくわれてしまい接触転倒。再スタートするものの、ピットに戻りリタイヤと悔しい結果になってしまう。

このアクシデントでトップに立ったのは、渡辺。何度か後続にかわされるものの、すぐに抜き返しトップで最終ラップに突入。2分09秒台にペースアップしライバルを突き放すと、そのままトップでゴール。今シーズン2勝目を挙げ、シリーズランキングでもトップに躍り出た。



清成 龍一 コメント

「今シーズンは、本当に自分のわがままで、様々なセッティングを試させてもらって来たのですが、なかなかいい状態になっていませんでした。レースウイークも木、金、土と全く決まらず、レース1は最悪の状態でした。それでもチームは自分を信じてくれて、大幅にセットを変更して朝のウォームアップ走行で、いいフィードバックになったことを確認してレース2に挑みました。一生懸命、頑張ってくれたチームのためにもベストを尽くして走り2位という結果を残すことができました。ここまで努力してきたことは、決して無駄ではないので、残り2戦はしっかり事前テストから戦える状態にしてレースに臨みます」



渡辺 一馬 コメント

「序盤、作本選手、渥美選手のペースがよかったのですが、自分のペースを走ることを決めていました。するとトップとの差が縮まり、前の2人がアグレッシブに走っていたので様子を見ようと思っていたら転倒してしまったので驚きましたが、集中し直して自分の速いところを生かしてファイナルラップに2分09秒台に戻すことができましたので、いいレースができたと思います。前戦をトラブルでリタイヤしてしまい悔しい思いをしましたが、ボク以上にチームが悔しがってくれて、今回のレースに向けて準備をしてくれました。その思いに勝って応えられて本当によかったですし、うれしかったです。応援してくださった皆さん、ありがとうございました」



作本 輝介 コメント

「作戦はなく行けるだけ行こうと思って走っていました。セッティング面でうまくいっていない部分もあったのですが、ライディングでカバーすることができれば、もっと速く走ることができたはずですし、後続を引き離すことができていたと思います。自分自身の力不足が今回の結果を招いてしまったので、頑張ってくれたチームに申し訳ない気持ちです。残り2戦は、とにかく勝ちだけを狙って挽回したいですね」



チーム監督：伊藤 真一 コメント

「JSB1000清成はマシンセットに苦しんでしまい、早い時期にヤマハがチャンピオンを決めることになってしまい残念な結果になってしまいました。レース2で復調の兆しが見えてきたので、残り2戦は、優勝だけを目指して事前テストから取り組んでいきます。ST1000は、渡辺の優勝はよかったですが、作本のアクシデントは残念でした。またも明暗が分かれる結果になってしまいましたが、Astemoさんを始め多くの皆さんがご協力くださっているおかげで、2人が安定した速さを発揮できています。早くも残り2戦になりましたが気を抜かずに進んでいきます」

次戦、第6戦岡山は、9月4日(土)5日(日)に行われます。